

問い合わせ先

海上保安庁海洋情報部海洋調査課

課長補佐 古川 博康 TEL 03-3541-3815 (内線 621)

海上保安庁海洋情報部技術・国際課

地震調査官 西澤 あずさ TEL 03-3541-3813 (内線 553)

平成 19 年 4 月 17 日

海 上 保 安 庁

能登半島地震の震源域海底調査を行います

海上保安庁は、3月25日に発生した平成19年(2007年)能登半島地震(マグニチュード6.9)の震源周辺の海底調査を4月21日から5月6日まで実施します。

1 概 要

今回は、測量船「天洋」(船長:浜中崇典(ハマカカリ)、本庁所属:総トン数430トン)を用いて、余震域を中心とした海底面の調査を行います。

今回の地震を引き起こした海底下の断層の動きによって海底面がどのように変化したかを調査し、地震の性質をより詳しく解明するための基礎資料とします。

また、この結果は、今後実施される科学技術振興調整費による「平成19年能登半島地震に関する緊急調査研究」でも活用されます。

2 調査等について

(1) 調査期間

平成19年4月21日から5月6日まで(16日間)

(2) 調査区域

能登半島西部の震源周辺の海域(別紙参照)

(3) 調査内容(別紙参照)

マルチビーム測深機による海底地形調査

サイドスキャンソナーによる海底面調査

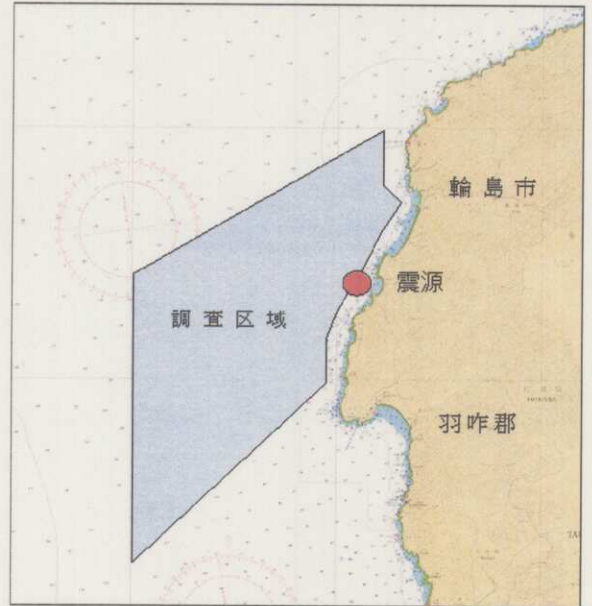
測量船「天洋」は、4月27日に金沢港入港を予定しており、その際27日に取材が可能ですので、取材希望の社にありましては、4月24日正午までに、第九管区海上保安本部金沢海上保安部(TEL 076-266-6115)あてご連絡をお願いします。取材日時の詳細については、調査状況及び気象・海象等により入港日時を変更する場合がありますので、判明次第ご連絡いたします。

○調査船の概要



測量船「天洋」
総トン数：430トン
主要寸法 (m)：(全長×巾×深)
56.0×9.8×4.8m

○調査区域



○マルチビーム測深機

船の直下から最大で左右75度の範囲（水深の約7倍の幅）の水深データを連続的に取得することができ、詳細な海底地形図を作成することができます。

○サイドスキャンソナー

曳航体から扇形ビームの超音波を左右両側に発射し、海底面から反射されてきた受信信号の強度を記録紙上に記録し、海底面の起伏を画像として捉えることができます。

【マルチビーム測深機での調査概念図】

【サイドスキャンソナーでの調査概念図】

